

ボクが

女装娘

になったワケ



プロローグ

私の名前は「まやか」。マンションで一人暮らしをしている22歳のフリーターです。

性別は・・・

男性です。

もちろん「まやか」という名前は本名ではありません。
バイト中は「しんじ」として働き、帰宅すると「まやか」となり生活しています。

どういうことなのかイマイチわかりませんよね？
つまり「しんじ」という男性が女装して「まやか」になるということです。

いつからこんな生活を始めたのかわかりませんが、「まやか」は私にとって分身のようなもの。あるいは現実から逃避し心を癒せる憩いの時間。

・・・だったのですが次第に「まやか」が私自身となりつつあります。
できればずっと「まやか」のままでい続けたい。

女の娘になりたい・・・。

第1話

「おつかれさまでした〜。」
私は店長に挨拶してドアを開けた。

「あっ、しんじ君」
店長が私を呼び止めた。

「なんでしょう？」
「どうだい、今夜みんなとカラオケでも行かないかい？」
急な誘いに私は困惑した。
「す、すみません。今日は予定が・・・」
「ああ、ならいい。また今度な」
店長は笑って手を振った。

予定など特になかった。けれど早く帰りたい理由があった。
今日は前から決めていた事を実行する日。
帰宅途中から胸がワクワクドキドキしていた。

帰宅すると私はすぐさま裸になりシャワーを浴びた。
そしてカミソリで脇の毛を処理する。
「やだな〜。ムダ毛なんとかしたいな〜。」
そんなことをぼやきながらスネ毛の処理も済ませた。

私はどちらかというと体毛は薄いほうだった。
だけど、女の娘としてはもっとツルツルになりたい。

シャワーを終えると下着をつける。もちろん女の娘の下着ね。
ブラにはCカップほどのパットが入れてある。
ブラとパンティは薄いピンクで水色の小さな丸が点々とした模様のもの。
私の一番のお気に入りの下着。

その格好でクッションに座り込む。
両方の太ももをくっつけ、内股に足を伸ばす。

私は髪をアップにして縛った。

私の髪はショートヘアーでサラサラではあるけれど、ウィッグを使用する。かわいいウィッグがたくさん売られているので、地毛よりも全然かわいい女の娘になれるの。

っと、ウィッグをかぶる前にお化粧をする。私は体が色白なので薄いピンクをベースにお化粧していく。顔だけ小麦色じゃ変だからね。

目力というようにアイメイクがとても大事。黒でアイラインをしっかり描き、デカ目になるコンタクトレンズを入れる。このコンタクトレンズが優れもので女の娘のようなデカ目と形にしてくれるのよ。

お化粧が済んだらウィッグをかぶる。前髪パッツンのロングヘアー。

これで顔は完成。鏡をのぞきこむとそこには女の娘の「まやか」がいた。

立ち上がりクローゼットの中を物色しはじめる。今日は特別の日。どの服にしようか、とっても迷っちゃう。

私が選んだ服は白い七部袖のシャツにリボン、フリルの黒ミニスカート、頭にはリボンのカチューシャ。

ちょっとシックだけど、かわいいも表現した服装にできたと思う。

時計は夜の9時をまわっていた。外はすっかり暗くなっており、肌寒い風が吹いていた。

私は窓を閉じカーテンを閉めた。

「ふう～」

私はしずかに息をはいた。

部屋の壁には全身がうつる
大きな鏡が立てかけてある。

まやかかの姿が頭から足の先まで
うつりだされているのが見えた。

「うんっ、かわいい、かわいい。」

私は自分の姿に満足だった。

そして、これからする事に対して
自分に自信をもたせようともしていた。

玄関に行き、
黒いロングブーツを履き始める。

そう、特別な事とは
女装で初の外出だった。

ドキドキしながらドアノブを掴む。

「大丈夫、バレないよ・・・。」

私はゆっくりドアを開けて外へ出た。

魅惑の世界へ旅立つような
そんな瞬間だった。

